

地域と企業つなぐ工場直売店

食品の工場直売店が人気を呼んでいる。直売とは、生産者が問屋や小売店などの仲介を通さず、直接消費者に売るのことである。

菓子や加工食品の場合、製造工場や事業所に直売コーナーを併設したり、一般的な販売店舗とは別に工場直売店を設けていたりする。営業時間内であればいつでも商品が購入可能な販売店と異なり、月1回や週1回など購入機会が限られるところも少なくないが、その日を楽しみに訪れる人もいるようだ。

人気の理由はさまざまだが、流通コストや包装が省かれたことで、小売店で販売される価格よりも安く購入でき、限定商品や作りたての商品が手に入るなど、そこにしかない価値がある。

一方で、賞味期限の近い商品や製造過程で形が崩れたものなどを格安で販売する直売店も多く、納得して購入すれば、かなりのお得感が味わえる。食品の値上げが続く中、家計の強い味方であり、企業にとってはフードロス削減でSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みになる。

県内にもいくつかの工場直売店がある。四日市市の製麺会社では各種麺を直販価格で販売する工場直販および試食会を月1回開催している。津市に本社を置く大手食品会社は品質や味には全く問題ないものの、さまざまな理由で規格外となった菓子や食品をアウトレット価格で販売する場を週1回、会社の敷地内に設けている。

工場直売の情報は地域の口コミやSNS（ネット交流サービス）を通じて広がることも多く、地元だからこそ『今、しかない商品を購入できることもある。

筆者も先日、県内の製菓工場の直売店を訪れ、割れたクッキーの詰め合わせを格安で購入した。店内にはリピーターとおぼしき家族やレジ係と親しく言葉を交わす地域住民の姿が見られた。レジでは翌日に賞味期限を迎える菓子をサービスしてくれた。

工場直売店は企業にとって、地域住民との接点を生む場であり、消費者の声を直接聞ける貴重な機会にもなる。地元企業の魅力再発見も兼ねて、近くの工場直売店を訪れてみてはいかがだろう。

（会員事業部 研究員 中嶋 理可）